

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501761		
法人名	株式会社 メッセージ		
事業所名	グループホーム アミーユ南蔵王 (ききょうユニット)		
所在地	広島県福山市南蔵王町5-20-25		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	平成25年8月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成25年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

障害を持った高齢者に対して、良質な住まいを提供し、生活を支えることを、「アミーユ」の使命と考えており、障害を持たれる以前の“普通の生活”の回復を目指した支援に取り組んでおります。言葉で要望を伝える事が困難な方でも、以前の生活を参考にし、要望を捉えるように努めております。外出や行事などにご家族にも参加して頂き、また、日々の生活の中で楽しみごとを重ねていき、ご利用者の喜びが職員の喜びであるような仕組み作りを行っております。地域の中で安心して過ごして頂けるよう、運営推進会議などを通して地域の方に施設を開示したり、ボランティアの方を受け入れ、交流を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに商業地があり、利用者が徒歩にて気軽に買い物に出かけられる利便性に優れた場所にある。介護日誌に利用者の希望を書き留め、実現できるものは積極的に行う事とし、家族の理解を得た上で自由に買い物に出かけられる方や地域にカラオケに行く事、季節を楽しんでもらうイベントなど生活の幅を広げこれまでの生活に近づけ、その人らしく張りのある生活となるようグループホーム本来の特徴をもった事業所である。家族との良好な信頼関係ができており、忌憚のない意見や要望も出しやすい関係作りが出来ていて利用者・家族の満足度の高さが伺える。わくわくツアー等の家族参加型のイベントも恒例化され家族との交流やふれあいの機会も多い。落ち着いた雰囲気の中、職員の穏やかな関わりによりゆったりと日々過ごされ、今後またゆむことなく質の向上に積極的に取り組まれ、今後のますますの発展に期待出来る事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

ききょうユニット

特定非営利活動法人 あしすと

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人およびユニットごとの理念を構築し、更に年間目標を設定し、その人らしい生活が送れるよう支援しております。	理念を基本とし、日々利用者が普通の生活に近づけることをモットーとし業務日誌で理念に沿った支援が出来ているかを確認している。また年間目標をユニット毎に作り理念と共に支援の基盤とし揺るぎなくケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件が商業圏である為、気軽に立ち寄って頂けるような活動は十分に行えていませんが、回覧板のやりとり、清掃など地域の行事への参加、ご近所への挨拶、施設行事のご案内を行っております。	併設施設全体で開催する秋祭りや夕涼み会等のイベントには地域住民の参加もある。地域の行事(健康教室等)に利用者と共に参加し、今後はカラオケ大会に参加予定であり、地域の方とふれあいや事業所を知って頂くことについて機会を見て積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域の方々に向けて認知症に対する理解や援助方法について、他事業所と共に『認知症サポーター養成講座』を行い、発信しております。今後は、町内会や地域の老人会を通し、行っていきたいと思っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、行事や事業所の取り組み状況などについて報告し、その中での意見を援助に繋げています。より多くのご家族に参加して頂けるよう、検討の必要性を感じております。	定期的開催し、地域の幅広い団体の参加もあり参加者紹介や行事報告をし、地域との関わりを重点に関心が持てる議題となるような工夫されている。「介護保険改定について」や「聴覚について」等の勉強会となることもあり意見交換内容も詳細に記録を取っている。今後も出来るだけ多くの参加者が得られるよう工夫していく。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター南蔵王管轄内の事業所、社会福祉協議会、介護保険課と『小地域ネットワークグループ』を形成し、地域連携について協力し合う取り組みを行っています。	小地域ネットワークの活動を通して市担当者、包括支援センター、支所担当者、社会福祉協議会と交流する事が多く、顔見知りの関係が出来ているため何でも相談しやすい関係作りが出来連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内および外部の研修により、正しく理解するよう努め、身体拘束の弊害について学ぶ機会を持つようにしています。玄関は日中は解錠しております。	高齢者虐待と身体拘束について勉強会を行い安全面とリスクに配慮し正しい知識をもった上で見守りを重点に抑制のない生活となるよう努めている。利用者の思いを探り原因を取り除くように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内および外部の研修により学ぶ機会を持ち、虐待の防止について十分に理解し、カンファレンスなどで話し合い、防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットを施設に設置し、研修会があれば参加していきます。また、必要性のあるご本人とご家族に、制度の活用をお勧めしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書説明時には疑問点や不安内容について、確認を行いながら、説明を行うようにしております。一度の説明では理解が難しい事も考慮にいれ、複数日かけることもあります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ご要望カードを設置し、いつでも意見を汲み取れるようにし、頂いたご意見について話し合い職員間でも共有できるようにしています。また、会社としても『お客様相談室』を設け、重要事項の説明の際にも公的窓口の案内をしております。	専用カードを設置し、利用者からも具体的に意見が出ることもあり、カードが有効的に利用されている。日頃の関わりの中で聞き取った利用者の意見や要望を書き留め、家族の意見も同様に記録しもれなく職員で検討し改善策を見出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回、業務改善に関する話し合いを行っており、トップダウンではなく、職員の意見や提案を運営に反映させる機会を設けています。	全体会議やユニット会議で意見を聞き取っている。個別に年2回程度面談する機会やキャリアにより地区の代表者による面談もされている。今年度より自己評価を実施し振り返る機会とする予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	キャリアアップ制度(昇給制度)、社外研修参加制度、資格取得補助制度を設けております。また、出産育児休業や配偶者出産休暇など、子育て支援制度も行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、ケアなどについての内部研修を行っており、また、外部研修の案内をし、希望者に参加してもらっておりますが、十分な体制とは言い難い状況です。資格取得補助制度も設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の意見交換は十分に行えております。また、包括支援センター南蔵王管内の事業所同士で連携をとっております。今後は事例検討会など行っていきたいと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時はもちろん、入居に関わる前から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居のご相談を頂いた時から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしております。来訪時には出来るだけ話をする機会を作り、信頼関係を築けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に何に困っておられるか、どうされたいのか伺い、現在どのような支援を必要としているかを見極め、どのようなサービスを利用すれば解決できるかを、一緒に考えるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に営むという認識のもと援助を行っております。ご自分で出来る事はご自分で、または職員と一緒にして頂き、日々生きがいのある生活づくりを、連帯感を持って支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況について、随時、ご家族に報告し、状態の把握をして頂き、援助についても一緒に考えて頂いております。定期的に家族会を開催し、ご家族同士の交流も出来るような場を設けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力して頂き、今までの生活が継続出来るように努めております。 <u>お茶の先生</u> に来て頂き継続して習い事をされている方もおられますが、十分とは言い難い状況です。ご家族や馴染みの方々に来て頂けるような環境づくりと対応に努めております。	近くのスーパーで知人に合う機会や近くのお気に入りの理容院に出向かれるかたもおられる。以前習われていたおけいこ事を継続され、利用者の生活が楽しいものであるように家族の協力を得ながら支援されているケースもあり個々に沿った継続をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も共同生活者の一人として、入居者様を支えるようにしています。入居者様同士の関係を把握し、職員が橋渡し役となって入居者様同士が関わりあえるようにしております。気の合う入居者様同士で散歩やフィットネスに日常的に参加、また外出を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了(退去)後は担当ケアマネジャーやソーシャルワーカーの方々と相談しながら、継続した関わりが必要なケースについてはフォローしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族から生活歴を伺い、希望や思いを把握するとともに、ご本人の意向に沿うよう、プラン評価時に話し合いをしております。また、困難な入居者様には態度や表情などから把握するように努めております。	日々の関わりの中で聞き取った利用者の要望を介護日誌に書き留め、即実行できることは行い、内容によっては他の利用者にも配慮しカンファレンスで検討し個々の要望を実現できるようにしている。内容によってはプランに活かす取り組みも行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談、面談、契約時などに今までの生活について伺うようにしております。ご本人、ご家族、親戚や近所の方、ケアマネジャーなど、ご本人をよく知っている方々から様々な情報を頂くようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を個別介護記録に記載し、現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、介護計画を作成し、入居者様、ご家族、主治医などの意見を頂きながら、カンファレンスなどで話し合い、計画作成しております。月の中途でも必要に応じ、計画変更を行い、現状に即した支援を心がけております。	おろそかになりがちなものにも配慮し各項目に分けて本人・家族から細かく要望を聞き取り毎月計画を作成している。満足度、医師の意見も加味し定期的に評価も行うことで現状に沿った計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	既定の個別介護記録に日々の生活の様子を記入しております。また、週一回のカンファレンス、ケアプラン更新時のモニタリングにて、介護計画の見直しを行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の受診や、ご希望の理美容院へはご家族対応となっておりますが、ご家族の状況により職員が行うなど、柔軟な対応が出来るようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方の今までの生活、現在の状況において必要な場合は、民生委員の協力を仰ぐようにしております。また、ボランティアの方を積極的にお招きし、演奏会などを開催して頂いたりなど、潤いのある生活づくりを支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人およびご家族が医療機関の選定をされています。事業所としては、適切な医療を受けられるように助言などを行っております。かかりつけ医と訪問診療以外でも、いつでも相談できるよう、連携しております。	本人家族の希望する医療機関となり、受診支援は家族と協力し行っている。医療機関と連携をとり受診内容・対応について記録し、家族に伝達する際正確に伝わる工夫がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師と連携をとりながら健康管理を行っております。また、適切な受診や看護を受けられるよう、日々の生活の状態の把握し、情報の共有に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を作成し、ご本人の様子を説明しております。また、定期的にお見舞いに行き、状態を把握し、その際には担当医師、看護師、ソーシャルワーカー等とも話をする機会を設けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から話し合いの機会を持つようにしております。また、早期に話し合いを行い、重度化した際の指針を作成し、かかりつけ医・看護師・職員間での方針の共有に努めています。	利用者や家族の思いを聞き取り、医師の判断でターミナルに入ったと判断された場合はプランを作成しカンファレンスを行い、家族を始め職員や関係者と話し合いを行い方針の共有をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、マニュアルを作成し、研修を行っていますが、定期的に継続しては行っておりません。救急救命講習会への参加をするように心がけております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応マニュアルの作成、更新を行っており、災害発生を想定した避難訓練を年2回、うち1回は地震想定での訓練を行っています。近隣の方々に避難訓練のご案内をし、参加して頂いております。	年2回定期的に訓練を開催し消防署の指導を真摯に受け止め実践されている。他県の事業所が被災され教訓に基づきニーズを把握し備蓄の確保を行い、災害に関しての意識を高く持っている。地域の方の参加についても毎回お知らせし、協力について運営推進会議等の機会を通じてお願いされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を守るような言動で接するようしております。個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に基づいて取り扱いを行っております。	常に敬いの精神を持って利用者に接するように心がけている。カンファレンスで話題とし居室への入室の際、排せつ介助時、入浴についても声かけやトーンを工夫し、自尊心を傷つけないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が理解し決定出来るよう、お一人お一人に合ったコミュニケーション手法により説明を行い、自己決定しやすい環境づくりにも留意しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活習慣や生活リズムに応じて援助をスケジュール化してはいますが、趣味活動など、その日の様子、希望によって臨機応変に対応するようしております。また援助については交渉を行ったうえで行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みに合わせ、着替えや化粧などの援助を行っております。理美容院についても、ご本人の望まれる店に行けるよう、ご家族にも協力して頂いております。訪問美容を利用されている入居者様も多くいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	保健衛生上、通常の食事は配食会社への委託を行っておりますが、イベントとして食材の調達から調理までを行うようにしております。職員も一緒に食事をとり、入居者様の好みと状態に合った食事の提供と補助具の使用に心がけております。また、準備や片付けについては、入居者様に協力して頂きながら行っています。外食にてお好きなものを召し上がって頂き、喜んで頂いています。	下膳の手伝いをされる利用者もおられ、個々の意欲を出来るだけ削ぐことなく利用者の力量を見て声かけをしている。利用者の希望される場所で個々のペースを崩さず、リラックスした雰囲気ですべてがされている。職員は介助の必要な方の傍らに座り、ゆったりと声かけし食べやすく工夫ほとんど完食されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じた食事形態の工夫を行い、一度の食べる量が少ない方には補食を提供するなど、摂取できるように取り組んでいます。その方の体調に応じて水分摂取量の記録を残し、一日を通じて確保出来るよう支援しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防の為に一人一人の状況に応じた補助具を使用し、口腔ケアや義歯管理の援助を行っております。また、必要な方には定期的に歯科衛生士によるケアも行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄障害のアセスメントを行い、一人一人の排泄パターンを把握し、出来るだけ自然な形での排泄が出来るように努めております。	入居時排泄に関してのアセスメントを詳しく取り、パターンを把握している。日中はほとんどトイレ誘導され不快な状態にならないよう心掛けて見守りや介助の支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについて、薬剤だけに頼るのではなく、運動励行、水分摂取、食物繊維の摂取など生活面から一人一人に合った支援に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望の時間に入浴できるように配慮しております。入浴をアクティビティの一つと考え、湯の温度や入浴方法など、好みに応じて対応しております。	自力で入られる方には時間がかかっても過度に手を出さず安全な入浴となるよう見守りしている。介助が必要な方はおおよその時間帯は決めていたが無理強いせず、希望に沿うよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように温かい飲み物を提供したり、室内の温度や湿度、明るさの調節、日中に疲れ具合に応じて休息を取って頂く、など行っております。その方の生活習慣やご希望の就寝時間に沿って、援助を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人が飲んでいる薬の情報について確認し、また、薬剤師から説明を受けるなどして、理解に努めております。また、薬の変更時には状態の観察を特に行い、介護記録に記入しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基本に、一人一人に合った役割を出来るだけ持って頂けるように配慮しております。料理教室やボランティア来訪など定期的に企画し、日々の生活の中での役割を大切にしながら、楽しみごとの演出も行うようにしております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時間に限りはありますが、希望に応じて散歩や買い物などにお連れしています。希望を言われたい方については定期的にお誘いしています。また、思い出の場所への外出やご帰宅、初詣やお花見、外食など、ご家族参加を含む外出を企画しております。	家族参加型のツアーや外出の計画をたて季節を感じてもらい外出も実施している。強制することなく利用者の希望を優先し、リフレッシュ出来るような工夫をし、利用者の楽しみとなっている。自力で外出が可能な方もおられ、安全面に配慮し思いを叶えた外出をされている方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族のご理解を頂き、個人でお金を所持しておられる方もおられます。ご要望に応じて買い物に同行し、お金を使えるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のお取り次ぎを行ったり、ご要望に応じてご本人で電話をかけて頂く援助を行っております。居室に電話を設置されている方もおられます。手紙を書かれたり投函などの支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光については入居者様にその都度聞きながら対応しております。共用空間の清掃を毎日行い、花を活けたり、季節感を味わえるような装飾を施し、心地よく過ごして頂けるように工夫しています。	ゆったりとしたリビングは高齢者が歩行する際妨げになるものも取り除き、利用者の視点で安全面に十分配慮されている。生け花や観葉植物、季節感を感じることができ、飾りつけも幼稚でなく家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、一人で、または気の合った方達とゆっくり過ごせるスペースもあります。ベランダのプランターで花を育て、話が出来る環境づくりも行っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具、写真や愛着のある物を持って来て頂けるよう取り組んでおります。また、ご本人が過ごしやすいうように家具の配置を工夫したり、好みに合った用具を使用させて頂いています。	全ての部屋は1日3回換気を行い、空気がよどみなく清潔である。TVやダンス、冷蔵庫など持ち込まれ利用者や家族にとって居心地良く個性がある部屋となり、レイアウトも利用者が動きやすく安全面に配慮した配置となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは広い空間となっている箇所が多く、安全とは言い難い面もあります。わかり易いようドアに目印をつけるなど、一人一人の生活動線の把握に努め、身体機能を活かして頂けるよう、工夫しております。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501761		
法人名	株式会社 メッセージ		
事業所名	グループホーム アミーユ南蔵王 (はまゆうユニット)		
所在地	広島県福山市南蔵王町5-20-25		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

障害を持った高齢者に対して、良質な住まいを提供し、生活を支えることを、「アミーユ」の使命と考えており、障害を持たれる以前の“普通の生活”の回復を目指した支援に取り組んでおります。言葉で要望を伝える事が困難な方でも、以前の生活を参考にし、要望を捉えるように努めております。外出や行事などにご家族にも参加して頂き、また、日々の生活の中で楽しみごとを重ねていき、ご利用者の喜びが職員の喜びであるような仕組み作りを行っております。地域の中で安心して過ごして頂けるよう、運営推進会議などを通して地域の方に施設を開示したり、ボランティアの方を受け入れ、交流を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

はまゆうユニット

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、ユニット独自の理念を構築し、更に年間目標を設定し、その人らしい生活が送れるように支援しております。また、カンファレンスで定期的に確認し、共有、実践に取り組んでおります。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件が商業圏である為、気軽に立ち寄って頂けるような積極的な活動は十分に行えていませんが、自治会に加入し回覧板のやり取りや、清掃など地域の行事への参加を行っております。また、ご近所への挨拶や施設行事の案内など行っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域の方々に向けて認知症に対する理解や援助方法について、他事業所と共に『認知症サポーター養成講座』を行い、発信しております。今後は、町内会や地域の老人会を通し、行っていきたいと思っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、行事や事業所の取り組み状況などについて報告し、その中での意見をカンファレンスで検討し、援助に繋げるよう努めております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター南蔵王管轄内の事業所、社会福祉協議会、介護保険課と『小地域ネットワークグループ』を形成し、地域連携について協力し合う取り組みを行っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内および社外の研修により、身体拘束が及ぼす悪影響などについて、正しく理解するよう努めております。そのうえで玄関の施錠については、やむを得ない状況においてのみ、行うようにしております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内および社外の研修により、学ぶ機会を持ち、カンファレンスなどで話し合い、防止に努めております。管理者と職員同士で情報の交換を細やかにを行い、防止への意識を高めるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度パンフレットを施設に設置し、研修会があれば参加していきます。また、必要性のあるご本人ご家族に、制度の活用をお勧めしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書説明時には疑問点や不安内容について、確認を行いながら、説明を行うようにしております。一度の説明では理解が難しい事も考慮にいれ、複数日かけることもあります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ご要望カードを設置し、いつでも意見を汲み取れるようにし、頂いたご意見について話し合い職員間でも共有できるようにしています。また、会社としても『お客様相談室』を設け、重要事項の説明の際にも公的窓口の案内をしております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回、業務改善に関する話し合いを行っており、トップダウンではなく、職員の意見や提案を運営に反映させる機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度(昇給制度)、社外研修参加制度、資格取得補助制度を設け、職員の努力や実績を把握するよう努めております。また、出産育児休業や配偶者出産休暇など、子育て支援も行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、ケアなどについての内部研修を行っており、自己研鑽の機会を持つようにしております。また外部研修の案内をし、希望者に参加してもらっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の意見交換は十分に行えております。また、包括支援センター南蔵王管轄内の事業所同士で連携をとっております。今後は事例検討会など行っていきたく思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時はもちろん、入居に関わる前から話を聴く機会を積極的に設けております。入居後も日常的に話を伺うようにし、ご本人の思いの変化にも配慮しながら、信頼関係の構築に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居のご相談を頂いた時から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしております。入居者様およびご家族、関係者様からより多くの思いを受け止め、信頼関係の構築に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に何に困っておられるか、どうされたいのか伺い、現在どのような支援を必要とされているのかを見極め、どのようなサービスを利用すれば解決できるかを一緒に考えるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に営むという認識のもと援助を行っております。洗濯物をたたむ、下膳をされるなど、ご本人の負担にならない程度で、その方に合った役割を持って頂きながら、連帯感を持って支援しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況について、随時ご家族に報告したり、毎月、近況報告を兼ねて手紙を送付し、状態を把握して頂き、援助についても一緒に考えて頂いております。受診や外出対応のご協力を頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にご理解ご協力して頂き、馴染みの場所に行かれています方はおりますが、十分とは言えない状況です。入居者様の中には、ご友人が定期的にご来訪して下さる方もおられ、関係が継続されるよう、おもてなしをしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も共同生活者の一人として入居者様を支えるようにしています。入居者様同士の関係を把握し、職員が橋渡し役となり、入居者様同士が関わりあえるようにしております。 <b>役割を持って頂く事について取り組み中です。</b>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了(退去)後は、担当ケアマネージャーやソーシャルワーカーの方々と相談しながら、継続した関わりが必要なケースについてフォローしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族から生活歴を聴き、希望や思いを把握するとともに、ご本人の意向に沿うようプラン評価時に話し合いをしております。入居して年数が経っておられる方の思いの変化についても伺うようにしております。また、表出が困難な入居者様には、態度な表情などから意向を把握するように努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居のご相談を頂いた時点で、今までの生活について伺うようにしております。共に生活する中でご本人の話を傾聴し、ご家族、親戚や近所の方、ご友人、ケアマネージャーなど、ご本人をよく知っている方々から様々な情報を頂くようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を個別介護記録に記載し、また、週1回のカンファレンスなどでの現状の把握し、毎月、介護計画の見直し・更新を行っております。朝の挨拶時の会話や表情などでその日その日の状態を把握するように努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族の思いや満足度、主治医などの意見を頂きながら、カンファレンスで話し合い、毎月計画作成を行っております。月の中途でも必要に応じ、計画変更を行い、現状に即した支援を心がけております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	既定の個別介護記録に日々の生活の様子や対応の記入しております。また、週1回カンファレンスを行い、情報を共有し、モニタリング、介護計画の見直し、介護の実践を行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のかかりつけ医受診や、ご希望の理美容院へはご家族対応となっておりますが、ご家族の状況により、職員が行うなど、柔軟な対応が出来るようにしております。入居者様のご要望に応じて買い物の代行支援も行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方の今までの生活、現在の状況において必要な場合は、民生委員の協力を仰ぐようにしております。また、ボランティアの方を積極的にお招きし、演奏会などを開催して頂いたりなど、潤いのある生活づくりを支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人およびご家族が医療機関の選定を行っております。事業所としては、適切な治療を受けられるように助言などを行っております。かかりつけ医とは、診療以外でもいつでも相談できるよう、連携しております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師と連携をとりながら健康管理を行っております。また、適切な受診や看護を受けられるよう、日々の生活の状態の把握し、情報の共有に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を作成し、ご本人の様子を説明しております。定期的にお見舞いに行き、状態を把握し、その際には担当医師、看護師、ソーシャルワーカーの方々とも話をする機会を設けております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から話し合いの機会を持つようにしております。また、早期に話し合いを行い、重度化した際の指針を作成し、かかりつけ医・看護師・職員間での方針の共有を行い、最期までより良い日常が過ごせるよう、協力体制を整えております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えマニュアルを作成し、研修を行っておりますが、定期的に継続しては行っておりません。地域で開催される救急救命講習会などへの参加をするよう心がけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応マニュアルの作成、更新を行っており、災害発生を想定した避難訓練を年2回、うち1回は地震想定での訓練を行っています。近隣の方々に避難訓練のご案内をし、参加して頂いております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を守るような言動で接し、援助を行う前には説明するようしております。個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に基づいて取り扱いを行っております。また、声かけの工夫やドアやカーテンを閉めるなど、プライバシーに配慮しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が理解し、決定できるようなコミュニケーション手法により説明を行い、自己決定を尊重し、ご本人の思いに沿った援助を行うようしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活習慣に応じて援助をスケジュール化してはいますが、例えば食事や入浴の時間、散歩のお誘いなど、その日の様子、希望によって臨機応変に対応するようしております。また、援助を行う際に説明したうえで行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みに合わせ、更衣や整容などの援助を行っております。理美容院についても、ご本人の望まれる店に行けるよう、ご家族に協力して頂いております。訪問美容を利用されている入居者様も多くいます。ユニットの年間目標にし、取り組んでおります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	保健衛生上、通常の食事は配食会社への委託を行っておりますが、イベントとして食材の調達から調理までを行う機会を設けるようしております。食事が楽しみのひと時になるよう、一緒に食事をしたり、食事形態の変更をしたり、介助の工夫をしたり、また、片付けをして頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じ、食事時間の変更や食事形態の工夫を行い、摂取できるように取り組んでいます。また、摂取量を記録し、職員全員での情報の共有に取り組んでいます。食事量が低下した場合、アセスメントを行い、その方に合った食事の援助を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防の為に一人一人の状況に応じて、口腔ケアの援助を行っております。また、必要な方には定期的に歯科衛生士によるケアも行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄障害のアセスメントを行い、一人一人の排泄パターンを把握し、出来るだけ自然な形での排泄が出来るように努めております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについては薬剤だけに頼るのではなく、運動励行・水分摂取・排便に良いとされる食品の摂取など、生活面から一人一人に合った支援にも取り組んでおります。排便の間隔の把握に努め、その方に合った排便管理の実践を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様一人一人の好みの湯温、入浴方法、希望の時間に入浴できるように配慮しています。しかし、皆様が安全に楽しみを持って入浴して頂くため、ある程度スケジュール化させて頂いてもおります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように、室温や照明の調整、排泄介助の時間の調節、日中に疲れ具合に応じて休息を取って頂く、などの工夫をしています。ご要望の就寝・起床時間に沿って援助を行っております。その時々状況に応じ、日中にも休息時間をとって頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人が飲んでいる薬の情報について確認し、また、薬剤師から説明を受けるなどして、理解に努めております。薬の変更時などには状態の観察を特に行うようにしております。また、過剰服用にならないよう見直しも行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基本に、出来るだけ役割を持って頂けるように配慮しております。日々の生活の中で家事の分担などの役割を大切にしながら、毎月の行事や外出企画など、楽しみごとの演出も行うようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時間に限りはありますが、天候や希望に応じて、散歩や買い物などにお連れしております。希望を言われない方については定期的にお誘いし、季節毎の外出にも積極的に参加して頂いております。ご家族の協力により定期的に外出されている方もおられ、また、1人で外出可能な方は外出前に声をかけて頂き相互に安心できる関係作りを心掛けております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の理解と協力を頂き、個人でお金を所持しておられる方もいます。また、普段は所持をご希望でなくても、旅行の際には、お土産などご自分で支払いをして頂けるよう準備して頂くなど、ご家族に協力を頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用について制限はなく、電話のお取り次ぎを行ったり、ご本人ご要望の際は電話をかける援助を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光については入居者様にその都度伺いながら対応しております。共有空間の清掃を毎日行い、また、季節感を感じられるような花を活けたり、写真を飾ったりなど、心地よく過ごして頂けるように工夫しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、共有空間であっても、一人でゆっくり過ごせるスペースもあります。洗濯物たみなど役割を持たれてる方には大きめのテーブルを使用させて頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての方が使い慣れた物を持参されているわけではありませんが、ご家族とお話をし、写真や馴染みの物を持って来て頂けるよう取り組んでおります。また、ご本人が過ごしやすいように家具の配置を工夫したり、好みに合わせた家具を使用させて頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設置していますが、共有スペースは広い空間となっている箇所が多く、安全とは言い難い面もあります。一人一人の生活動線の把握に努め、能力に応じたりリスク管理を行い、身体機能を活かして頂けるよう考慮しております。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議や当事業所が参加する近隣事業所同志の連係(小地域ネットワークグループ)以外で介護保険課とより関わりが持てるようにすればなお良い。	介護保険課とより良い関係作りをし、入居さまのサービス向上を目指す。	「介護相談員」という事業を活用し、高齢者の真のニーズを捉える。	6カ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。